



令和6年度

自主公演年間予定表

公演のご案内



沖繩伝統芸能の殿堂
国立劇場おきなわ
 National Theatre Okinawa



- バスの場合 ※青枠は国際通り(松尾・牧志・安里)経由
- ① 勢理客バス停(国道58号沿い) 徒歩約8分
 - 那覇空港発着(旭橋・那覇バスターミナル経由) **23 26 99 120 120**
 - 那覇バスターミナル発着 **24 27 28 29 31 52 63**
 - 旭橋・那覇バスターミナル発着 **20**
 - おもろまち駅前広場発着 **223 227 228 263**
 - ② 国立劇場おきなわ(結の街)バス停 徒歩約1分
 - (那覇)バスターミナル前経由 **339**
 - ③ 国立劇場前バス停 徒歩約3分
 - 那覇バスターミナル発着、経由 **32 385**
 - (那覇)バスターミナル前経由 **309 334**
 - 旭橋・那覇バスターミナル経由 **43**
 - ④ 勢理客バス停(市道沿い) 徒歩約10分
 - 那覇バスターミナル発着 **47**
 - 旭橋・那覇バスターミナル経由 **87**

■ タクシーの場合 那覇空港から約20分(時間帯による)

お問合せ 国立劇場おきなわ チケットカウンター **TEL.098-871-3350**

国立劇場おきなわ
 National Theatre Okinawa
 〒901-2122 沖縄県浦添市勢理客4-14-1
<https://www.nt-okinawa.or.jp> [劇場HP]

沖繩の伝統芸能

沖繩の伝統芸能

組踊を観る



組踊は、唱え(台詞)、音楽、踊り(所作)によって構成される歌舞劇です。琉球王府の踊奉行に任命された玉城朝薫(1684～1734年)が、中国皇帝の使者である冊封使を歓待するために、沖縄の古来の芸能や故事を基礎とし、本土の能、狂言、歌舞伎等を参考にして創作したもので、1719年、尚敬王の冊封式典後の宴で、初めて上演されました。朝薫の創作した5つの作品をはじめ、その後の踊奉行らによって創作された組踊は、現在約70の作品が確認されています。組踊は、1972年に国の重要無形文化財に指定され、2010年にはユネスコの無形文化遺産一覧表に記載されました。

琉球舞踊を観る



琉球舞踊は「古典舞踊」「雑踊」「創作舞踊」におおよそ分けられます。古典舞踊は、組踊とともに琉球王国時代、冊封使を歓待するために踊奉行によって創作され完成しました。古典舞踊に対して明治以降に新たにつくられた舞踊を雑踊と称します。軽快なリズムや振り付けで一般庶民の生活や感情を表現しています。さらに戦後つくられた琉球舞踊を創作舞踊と称し、優れた作品が相次いで生まれています。2009年に古典舞踊から明治以降の雑踊を含めた「琉球舞踊」が、国の重要無形文化財に指定されました。

※二次元コードを読み込むとデジタルパンフレット「沖繩の伝統芸能」をご覧くださいませ⇒

沖繩芝居を楽しむ



沖繩芝居は、琉球王国の消滅とともに、それまで王府に仕えた宮廷芸能の担い手たちが庶民を相手に商業演劇を演じるようになったのが始まりです。琉球王国時代の舞台芸術と民衆の心の機微が融合した沖繩芝居は、庶民風俗と人情を描いた作品が多く、悲恋物語が人気をよんでいます。「奥山の牡丹」「泊阿嘉」「伊江島ハンドー小」は三大悲歌劇とよばれています。

民俗芸能の誇り

沖縄は、民俗芸能の宝庫と言われています。島々、村々の祭りの場で生まれた芸能と王府で作られた御冠船踊が、今もなお、沖縄の各地で受け継がれています。獅子舞、棒踊り、舞踊、狂言、芝居、組踊等、数多くの芸能が舞台で披露され、演者と観客がひとつになって歌と踊りに情熱をたぎらせます。



獅子舞(石垣市宇登野城)

三線音楽を聴く



沖縄の音楽は、歌三線の伝統が生み出した世界で、古典音楽と民謡におおよそ分けて考えられます。古典音楽は琉球王国時代に王府を中心に演じられた音楽の総称で、組踊や古典舞踊と深い関わりを持ちつつ、発展してきました。伴奏楽器として箏、笛、胡弓、太鼓が用いられます。民謡は、古謡や古典音楽をルーツに、庶民の中で傳承されてきました。沖縄の伝統・心・魂を受け継ぎ、時代の流行等も取り入れながら、新しい作品が生まれ発展を続けています。